再びスズメバチ

深川医師会
深川市立病院
代田（だいた）　剛（ごう）

７月のある日、いつも通り玄関のドアを開き、何とはなしに視線がガレージに向かった時であった。私にとって大変なものを発見してしまった。スズメバチの巣ではないかと気付いたからである。ガレージのドアの上に設置されている外灯には、小さいながらどう見てもそれらしいものがあった（**図１**）。スズメバチの巣を自分で除去したとき、少しばかり本を読み、多少の知識を得た。それを想い出すと、今見ている巣は女王蜂が一匹で基礎を作り、これからスズメバチが繁殖して大家族になる段階と思えた。そうなると大変である。玄関から出て直ぐのところである。とても生活できない。早速行動を開始した。自力での巣の除去である。私にとって巣の除去を業者に頼むという選択肢はない。それはたった１度であるが、成功体験が揺るぎのない自信となっているからである。これについては本誌令和５年10月号と12月号に掲載していただきましたので、そちらをお読みください。

まずは敵を知ることである。写真を撮り、防護服を借りるために市の窓口に行った。借用の手続きをし、除去の注意を聞くために写真をみてもらった。意外なことを言われた。係員は「ホオナガスズメバチですね」と言った。私はケブカスズメバチの初期の巣と思っていたが、違う種のスズメバチというのである。そう言われればケブカスズメバチの巣の色は茶色で、たくさんの円が連なる模様があったが、今回は灰色一色である。いずれのスズメバチであっても害毒は同じようなものであるので、早急に除去しなければならない。係員にホオナガスズメバチ除去の注意点を尋ねた。特に新しいものはなかった。付いてきたちいちゃん（妻）は「どうしてウチばかり狙われるのですか」と不服そうに係りに質問した。「スズメバチに聞いてください」と、返事はつれなかった。それはそうであろう。専門家でないし、あとで突っ込まれたら困ってしまうだろう。

家への帰り道の途中、除去に必要な強力噴射剤を購入するためDCMに寄った。コーナーに行ったら、スズメバチ除去と書かれてある噴射剤があった。前回使ったマグナムジェットプロではなく、別のものであり、値段も少し安かった。大丈夫かなー、と多少の不安はあったが１本選びレジに向かった。途中で別のコーナーがあり、マグナムジェットプロを見つけた。迷いはなかった。そして夜に行動開始と決め家に帰った。

そう決めたがちょっと違った考えが頭に浮かんだ。それでよいのかと思った。ホオナガスズメバチはよいが、この巣が活動しているのかとの疑念が浮かんだのである。少し前に家の周りでスズメバチを見た覚えはあるが、この数日一匹もスズメバチを見ていないのに気付いた。もしかすればスズメバチはもはや巣にいないのではないかと疑った。それならわざわざジェットプロを使うのはもったいなく無駄である。そこで日中ではあるが、いるかどうかを試してみることにした。巣を揺るがせば、中に蜂がいるなら攻撃してくるだろうと考えた。この試みを実行するには防護服着用と、長い棒が必要である。初夏に暑苦しい防護服着用は望まないがやむを得ない。防護服を着て、恐る恐る３m程ある棒で巣をつついてみた。ウンともスンともいわない。蜂がいないのを確信した。直ぐにナイフで外灯から巣の根元を切り離し除去に成功した。後で中を割ってみたら数匹の死んだ蛹が認められた（**図２**）。理由は不明であるが、女王蜂が巣を作ったが、何らかのことが起こり、途中で放棄されたのであろう。ともかく今回はあっけなく終了した。激しい戦闘を覚悟していたので拍子抜けの気分である。

追記　原稿を投函後の９月初旬、我が家の家庭菜園に数日間複数のスズメバチが訪れ花の蜜を吸っていた。それも違った種類が同時に、である。よほどスズメバチに好まれる家であるようだ。注意深く家の周りのスズメバチの巣探しをした。また発見した。ベランダに置いてあった空の段ボール箱の蓋が開いた状態であり、その裏に直径数センチの巣がぶら下がっていた。こんなのもありかと驚いた。これでは大きな巣にはならないので早々と放棄されたようだ。飛んでいたスズメバチとの関連は分からないが、スズメバチの面白さを見た気がする。

図１

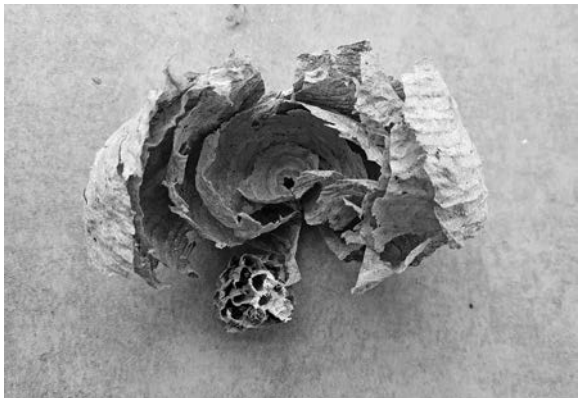

図２